

(様式 8)

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学術)	氏名	Luong Ngoc THANH
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 ・ 2 項該当		
<p>論 文 題 目</p> <p>Vietnam's Foreign Policy in the post-Cold War Era: Ideology and Reality</p>			
<p>論文審査担当者</p> <p>主 査 中園和仁・教授</p> <p>審査委員 山根達郎・准教授</p> <p>審査委員 川野徳幸・教授</p> <p>審査委員 篠田英朗 東京外国語大学・教授</p> <p>審査委員 岩田賢司 広島大学・名誉教授</p>			
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>冷戦の終焉は世界中の国々に重大なインパクトを与えたが、本論文は、冷戦の終結により急激に変化する国際環境にベトナムはどのように適用していったのか、国家体制の存続という目標と、国家の発展を確実にするために、どのような政策調整を行ったのかを問題の視点としている。そして、ベトナムの国内政治のみならず、地域、および国際政治の文脈で、ベトナムの政策決定過程を分析することを試みている。第 1 章では、理論的枠組みの構築のために先行研究を検討し、対外政策の非対称的一般理論を応用している。また、ベトナムの対外政策の形成、および再構築の理論的基は、マルクス・レーニン主義であり、対外政策の形成、および再構築過程に重要な役割を果たしていると考えられる。第 2 章では、ポスト冷戦時代のベトナムに関する先行研究を検討した。第 3 章では、ベトナムの対外政策の形成と再構築について検討し、対外政策決定のための基本的原則、および指針を明らかにしている。第 4 章では、冷戦終結にともなうベトナムの対外政策の刷新について、ドイモイ政策以前の対外政策と比較しながら、検討した。第 5 章では、1986 年から 1991 年までの対外政策の刷新時期を、イデオロギーと現実のジレンマ、あるいはギャップとして分析している。ソ連の崩壊にともなうベトナムの体制崩壊の危機感から、政府は 1980 年代半ばの多面的外交から、後半のイデオロギーに傾斜した対外政策への一時的な転換が明らかにされた。体制存続のために、敵対してきた中国との関係正常化に向かうベトナム政府の方向転換などが描かれている。第 6 章では、1991 年から 2001 年までの時期の現実主義的対外政策への転換が取り上げられる。91 年の第 7 回党大会の決議により、独立自主外交の方針が打ち出され、国益を主体とした外交への転換過程が分析されている。そして、19991 年以降、ようやく独立自主の多面的な外交に徐々に転換していった。第 7 章では、2001 年から 2011 年までのベトナムの全方位外交が分析される。報告者は、ベトナムのリーダーシップ構造の特徴から見て、イデオロギーと現実主義の間のジレンマは今後もベトナムの政治・外交において継続するだろうと結論付けている。</p>			